

THE TOKYO BALLET

美しく切なく語られる ベジャールのクリスマス ベジャールの「くるみ割り人形」 注目のニューキャストで 5年ぶりの上演!

東京バレエ団によるベジャールの「くるみ割り人形」の5年ぶりとなる今回の上演は、バレエ・ファン待望の実現といえるでしょう。また、今回は注目のニュー・キャストでの上演でもあり、さらなる感動への期待も膨らみます。ここでは、この作品におけるキーパーソンM..役に初めて扮した中島周に、作品への思いや役づくりについて語ってもらいました。



初役「M..」に 挑む 中島周

プレッシャーはありませんが、 初めての感覚が・・・

「意外なことに、全くプレッシャーを感じてはいないんです。」と言う中島周。すでに準備万端整っての自信から来ている言葉? いやいや、これまでに、ベジャール作品ほか、数々の重要な役柄に初めて挑むときには常に大きなプレッシャーを感じていたという。今回、何かが違うというその理由は一体?

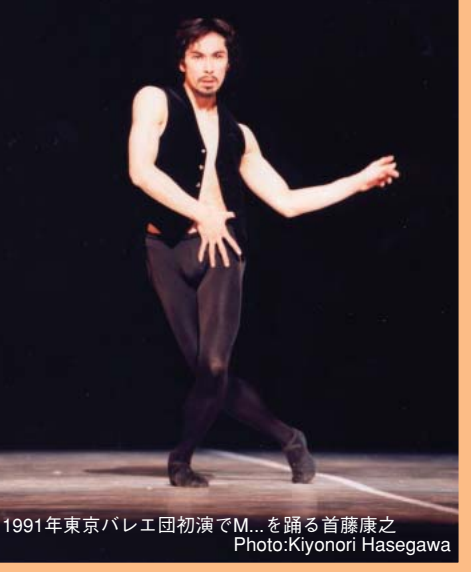


首藤康之(右)との稽古に勤む中島周(左)
Photo:Kiyonori Hasegawa

「僕はどんな役でも、踊りそのものを稽古することでももちろんですが、その周辺についてもできるだけ求めるというやり方をしていました。だから、今回M..役を踊ることになって、ベジャールさんの自信を読むことによってベジャールさんの人と成りを掴むとか、場面の中に出てくる「ファウスト」を読むとか、そういったアプローチから始めました。いつもと同じやり方なんですけど、今回は違う感じがする。衣裳をつけてメイクをして、という状態になったときに、何かが起こるんじゃないかって。こんな感じは初めてですね。言葉にするのは難しいんですが、ただ言えるのであれば、僕自身が新しい自分に会えると感じていて、それがこうした感覚に結びついているのかもかもしれません。僕はこれまで、どちらかというと明るいイメージの役を演じることが多かった。それはそれで好きなんですけど、物事には対照となる二つの要素で成り立つってことがあるじゃないですか。天と地とか、左と右とか・・・明るい光とか輝きの場合には影っていうことになるのかな。そういう意味では、M..は、影の要素をもつ役で、僕としてはこれまでにない自分を表現する機会になると、楽しみにしているわけです。」

「くるみ割り人形」とは 運命的な結びつきか?

かつて、ベジャールが主催するローザンヌのルードラ・バレエ・スクールの学んだ経験を持つ中島周だが、その経験がもたらしているものは? という問いに答えてくれているなかからは、ある種の



1991年東京バレエ団初演でM..を踊る首藤康之
Photo:Kiyonori Hasegawa

■予定される主な配役

ビム：高橋竜太 (12/6)、氷室友 (12/7)
母：吉岡美佳 (12/6)、高木綾 (12/7)
フェリックス：古川和則 (12/6)
松下裕次 (12/7)
M..：中島周
妹のクロード：高村順子 (12/6)
佐伯知香 (12/7)
光の天使：高岸直樹&後藤晴雄 (12/6)
高岸直樹&平野玲 (12/7)

妖精：井脇幸江 (12/6)、西村真由美 (12/6)
奈良春夏 (12/7)、田中結子 (12/7)
マジック・キュービー：飯田宗孝
グラン・パ・ド・ドゥ：小出領子&木村和夫 (12/6)
吉岡美佳&後藤晴雄 (12/7)

*配役は9月29日現在の予定です。やむをえない事情により変更になる場合があります。

ベジャールの「くるみ割り人形」 物語とみどころ

第1幕

クリスマスの夜、母を亡くした少年ビムは、父にもあったくみでひとり寂しく遊んでいる。部屋には父と飼った猫フェリックス。すると夢か魔法か、ビムの傍らに白いスーツに身を包んだ母親が現れ、モミの木の下に小さなプレゼントを置く。

一転、背景の幕が落とされ、夢のような夜へ。赤と白のレオタード姿のダンサーたちがクラス・レッスンをしている。マントを羽織ったM..が歩き回り、ビムも一所懸命に踊る。

猫のフェリックスが呪文を唱えると、赤いカーテンの向こうから緑のマントをつけた少女、ビムの妹が現れる。ビムと妹がよく遊んだ「ファウストごっこ」が始まる。懐かしい家族団圓に誘われたかのように、再び母親が現れる。ビムも妹もフェリックスも、母のもとに集まる。

母や妹が去ってしまい、夢は次の場面へ。M..の杖のリズムに合わせてボイスカウトの少年たちが登場する。ビムも一緒に踊るが、やがて疲れ果てて眠りにつくと、森の奥からまばゆく光り輝く天使たちが現れ、彼らを見守る。朝になり、目覚めた少年たちの目の前に現れたのは巨大にそびえる聖母像。像に母の面影を見出したビムは、それによじ登ろうとするが、足を滑らせて落ちてしまう。

やがて、像がくると回転。現れた美しいほころには、ビムが探し求めていた母が! ビムと母は、愛情溢れるパ・ド・ドゥを踊る。ビムと母がほころに消え、光の天使と妖精たちが踊ります。これに誘われるかのように降り出した雪のなか、サンタクロースならぬマジック・キュービーが登場。華やかなマジックで、母と再び会えたビムを祝福する。

第2幕
母と出会えた母とビム。M..に促され、ビムは母を喜ばせるために趣向を凝らした踊りの数々を母に見せる。闘牛で盛り上がる「スペインの踊り」、自転車に乗った「中国の踊り」、不思議なマジックで始まる「アラビアの踊り」、ダイナミックで華やかな「ロシアの踊り」、そしてフェリックスもタキシードの男たちを引き連れて愉快な踊りを披露する。やがて踊りは小粋なシャンソンによる「パリの踊り」へ。ビムと母も一緒にワルツを踊る。

楽しく踊るうちにバレエの世界へと引き込まれていくビム。彼の目にはもうM..の踊りに釘付け。白いドレス

姿の母も「花のワルツ」にのせて軽やかに踊る。そして、M..の紹介で古典版「くるみ割り人形」のグラン・パ・ド・ドゥが踊られる。場面は冒頭のクリスマス

の傍らで眠りこんでしまった。明らかにオデットよりはセクシーで動きも美しい。それをジークフリートは「たぶん彼女は僕をもっと必要としているんだ」と受け取ってしまったのだ。つまり、同じ自分が愛した女性オデットの姿をしている、美しさとピュアさだけでなく、もっと刺激的なものを彼女は

欲している、恋のスパイスを僕に求めている。と。よく言われているように、彼はオデットとオディールの見分けがつかなくなったのではなく、オデットは変わったのだと思ったんだよ。そして自分に対して、より以上のものを求めているんだ、と。ほら、彼は恋心で盲目になっているからね(笑)。少なくともこの物語、僕はそう解釈して踊っています。そうした激しい恋の旅路を辿るせいか「年々終幕の第4幕が好きになってきた」とか。皆が違う踊りのスタイルとテイストを持っていて、皆が各々ユニークで。彼らから学べたものはかなり知れないよ。」

彼自身、素晴らしいパフォーマンスで日本のバレエ・ファンに強い衝撃を与えたというのに、フリーデマン・フォーゲルは、こうフェアな発言をする。こうした真摯さは自分が踊るバレエの演目やキャラクターにももちろん及んでいるようだ。

「日本が大好きだから、「白鳥の湖」全書を日本で踊れるのは嬉しくて仕方がない。実は全書物って体力的にはもちろん消耗するけれども、自分自身で各場面にすべての感情を込めて物語を構築できるから、ある意味、ガラシクダンスだけでストーリーやキャラクターに人々を引き込むのはとても大変だからね(笑)。しかも、全書を踊ることで、同じジークフリート役でも微妙な違いが見られるよ。例えば、第2幕で白鳥オデットを相手に踊る時と、第3幕で黒鳥オディールを相手にした時の違い。当然相手役のポリーナの踊り方、演技の仕方も違うわけだけど、ジークフリートには彼女の理由があるんだと思うな。」

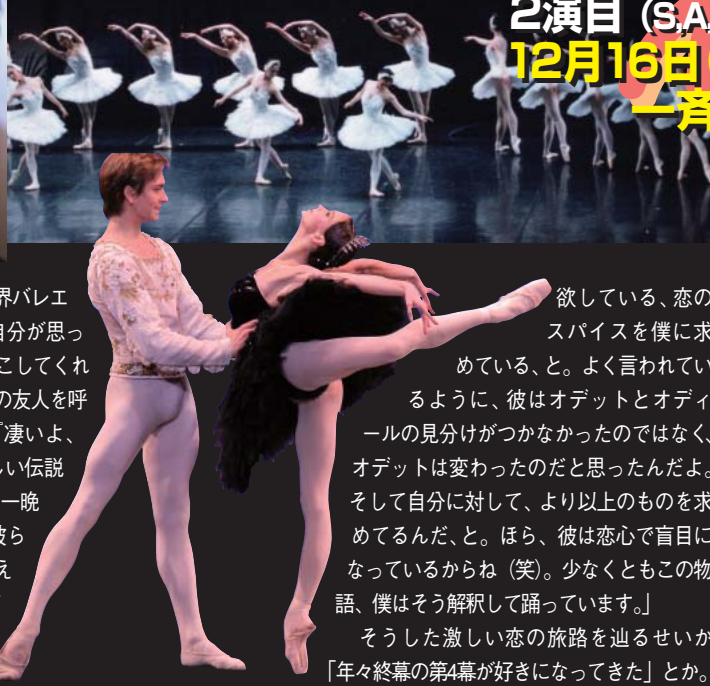
村娘ゼルゼをだまし形になった「ゼルゼ」のアルブレヒトに比べると、瓜二つのオデットとオディールの区別がつかなくなったジークフリートまで同じように罰せられるのは、フェアじゃないの? という話に「僕って、フェアじゃないんだよ(笑)」と意味深な言葉を口にするフォーゲル。

vol.237

THE TOKYO BALLET

東京バレエ団2007年月春を飾る古典の2大傑作

天性の「白鳥の湖」の王子 フリーデマン・フォーゲル インタビュー



「ポリーナと一緒に踊った『世界バレエフェスティバル』での経験は、自分が思っている以上に大きなものを僕にのこしてくれたよ。何しろドイツのバレエ好きの友人を呼んでしまったくらいだからね。『僕いよ、このガラ! とんでもなく素晴らしい伝説的なダンサーがいっぱい。しかも一晩でそのすべてが見られるんだ。彼らを世界各地で一人ずつ見ようと考えたら、10年、いや20年はかかってしまう!』ってね(笑)。でも、毎日本当にそう感じていたよ。皆が違う踊りのスタイルとテイストを持っていて、皆が各々ユニークで。彼らから学べたものはかなり知れないよ。」

彼自身、素晴らしいパフォーマンスで日本のバレエ・ファンに強い衝撃を与えたというのに、フリーデマン・フォーゲルは、こうフェアな発言をする。こうした真摯さは自分が踊るバレエの演目やキャラクターにももちろん及んでいるようだ。

「日本が大好きだから、「白鳥の湖」全書を日本で踊れるのは嬉しくて仕方がない。実は全書物って体力的にはもちろん消耗するけれども、自分自身で各場面にすべての感情を込めて物語を構築できるから、ある意味、ガラシクダンスだけでストーリーやキャラクターに人々を引き込むのはとても大変だからね(笑)。しかも、全書を踊ることで、同じジークフリート役でも微妙な違いが見られるよ。例えば、第2幕で白鳥オデットを相手に踊る時と、第3幕で黒鳥オディールを相手にした時の違い。当然相手役のポリーナの踊り方、演技の仕方も違うわけだけど、ジークフリートには彼女の理由があるんだと思うな。」

村娘ゼルゼをだまし形になった「ゼルゼ」のアルブレヒトに比べると、瓜二つのオデットとオディールの区別がつかなくなったジークフリートまで同じように罰せられるのは、フェアじゃないの? という話に「僕って、フェアじゃないんだよ(笑)」と意味深な言葉

欲している、恋のスパイスを僕に求めている。と。よく言われているように、彼はオデットとオディールの見分けがつかなくなったのではなく、オデットは変わったのだと思ったんだよ。そして自分に対して、より以上のものを求めているんだ、と。ほら、彼は恋心で盲目になっているからね(笑)。少なくともこの物語、僕はそう解釈して踊っています。そうした激しい恋の旅路を辿るせいか「年々終幕の第4幕が好きになってきた」とか。皆が違う踊りのスタイルとテイストを持っていて、皆が各々ユニークで。彼らから学べたものはかなり知れないよ。」

彼自身、素晴らしいパフォーマンスで日本のバレエ・ファンに強い衝撃を与えたというのに、フリーデマン・フォーゲルは、こうフェアな発言をする。こうした真摯さは自分が踊るバレエの演目やキャラクターにももちろん及んでいるようだ。

「日本が大好きだから、「白鳥の湖」全書を日本で踊れるのは嬉しくて仕方がない。実は全書物って体力的にはもちろん消耗するけれども、自分自身で各場面にすべての感情を込めて物語を構築できるから、ある意味、ガラシクダンスだけでストーリーやキャラクターに人々を引き込むのはとても大変だからね(笑)。しかも、全書を踊ることで、同じジークフリート役でも微妙な違いが見られるよ。例えば、第2幕で白鳥オデットを相手に踊る時と、第3幕で黒鳥オディールを相手にした時の違い。当然相手役のポリーナの踊り方、演技の仕方も違うわけだけど、ジークフリートには彼女の理由があるんだと思うな。」

村娘ゼルゼをだまし形になった「ゼルゼ」のアルブレヒトに比べると、瓜二つのオデットとオディールの区別がつかなくなったジークフリートまで同じように罰せられるのは、フェアじゃないの? という話に「僕って、フェアじゃないんだよ(笑)」と意味深な言葉

12月9日(土) 10:00a.m.
2演目 (SAB券)セット券受付
12月16日(土) 10:00a.m.
一斉前売開始

百花斉放、ダンス満開! 「ドン・キホーテ」 キャスト発表!



「白鳥の湖」の静謐な美しさに続いて上演されるのは、熱気溢れる踊りが満開する「ドン・キホーテ」。異なる魅力をもつ作品を連続ざまに上演することは、東京バレエ団のもつ底力を発揮することでもあります。また、それを現実させるのは、他でもない、ダンサーの層の厚さ。

今回の「ドン・キホーテ」では、すでにこの作品では高い評価を得ている上野水香&高岸直樹とともに、小出領子&後藤晴雄のペアが初登場します。

上野水香が東京バレエ団の「ドン・キホーテ」に初めて登場したのは2004年のこと。東京バレエ団の新しいプリマの誕生を強く印象つけた作品でもありました。以来、数々の全書作品を踊る経験を経て、自身の表現を磨き上げてい

上野水香は、今回もまた、彼女ならではの美しく華麗なキトリを楽しませてくれるに違いありません。そしてその一方、キトリ役に初めて挑む小出領子も、大きな期待が膨らみます。小出領子の全書主演といえ、2005年にマニュエル・ルグリに相手役に演じた「眠れる森の美女」の美しくチャーミングなオーロラ姫が、またシルヴィ・ギエムとの共演を果たした「田園の出来事」での愛らしいヴェラが思い浮かびます。

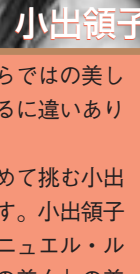
東京バレエ団が上演するワシリーエフ版「ドン・キホーテ」の魅力は、キトリとバジルの主役の見せ場はもちろんのことですが、第1幕でこの二人の主役とともに火花の出るような踊りの競り合いを見せるメルセデスとエスパルダ、また、独特の情感で場面を盛り上げるジプシーの娘をはじめとした個性豊かなキャラクターも欠かすことはできません。キャスト



上野水香



小出領子



後藤晴雄

今回初めて挑むキトリ役を踊るにあたり、「キトリは出ずっぱりで踊りもハードだし、それに加えて芝居の表現という点でも難しいので大変な役だなぁと、ずっと思っていました。それを私が踊ることになって・・・。バジル役の後藤晴雄さんと相談しながら、私なりのキトリを創っていきたくています。」と語る小出領子。キトリに求められるのは、小出のもつ魅力と通じるものでもあるだけに大いに楽しみにしています。

東京バレエ団が上演するワシリーエフ版「ドン・キホーテ」の魅力は、キトリとバジルの主役の見せ場はもちろんのことですが、第1幕でこの二人の主役とともに火花の出るような踊りの競り合いを見せるメルセデスとエスパルダ、また、独特の情感で場面を盛り上げるジプシーの娘をはじめとした個性豊かなキャラクターも欠かすことはできません。キャスト

東京バレエ団の滝刺としたエネルギーが観客の皆さまに余すことなく伝えられる、そんな舞台が期待されます。

上野水香 & 高岸直樹
Photo:Kiyonori Hasegawa

セット券割引
【ベジャールの作品は、お申し込みはできません】
「白鳥の湖」「ドン・キホーテ」の2演目 (SAB券) をセットでお買い求めの場合、1セットにつき2000円 (1枚1000円) 割引いたします。2演目が何枚数であれば、日にちと券種は自由な組み合わせでお申し込みいただけます。NBSのみで受付。

*「白鳥の湖」は、先月号NBSニュースおよびNBSホームページで当初お知らせした日程が変更になっております。

WWHAT 'S NEW

吉岡美佳、高岸直樹 ベルリンでの「マラーホフ&フレンズ」に出演

2007年1月から3月にかけてベルリンで開催される〈マラーホフ&フレンズ〉に、吉岡美佳と高岸直樹が、出演することになりました。また、吉岡美佳はさらに、4月にベルリン国立バレエ団によって上演されるベジャールの大作「ニーベルングの指環」のブリュンヒルデ役にも挑みます。



吉岡美佳

「眠り」の公演が終わったときに、マラーホフさんから、今度は違うものも踊りにおいて」と言っていたきましたが、それが実現することになってやはり嬉しいです。(マラーホフ&フレンズ)で踊る作品は、まだ検討中ですが、できるだけ自分の良いところを出せる作品を、と

考えています。いま、私が聞いている他の出演者ということでは、マラーホフさんと踊るのがポーリーナ・セミノワさんとジュリー・ケントさんで、あとはホセ・カレニョさん、ルシア・ラカッラさんとシリル・ピエールさん、もっと他の方も出演されるでしょうけれど……。実を言うと、海外はもとより、国内でもこれまでにガラ公演で踊るといった経験は無いので、全幕もので踊るのとは違う緊張感があるだろうなと想像しています。外国の舞台で踊るのは東京バレエ団での経験がありますが、それと、周りはみんないつもの仲間だから、舞台上では日本も外国も関係なくなっちゃってるっていう感じで(笑)と語る吉岡美佳。プレッシャーというより、新しい体験を楽しみにしていることがうかがわれます。

また、ベジャールの「ニーベルングの指環」についても「振りそのものだけでなく、役柄を表現するための作品についての理解とか、準備しなければならないことがたくさんありますが、この役を踊れる機会を得られたことは何よりも嬉しいですし、頑張ろうと思っています。」と意欲を語ってくれました。

2007年、年明けから春にかけての吉岡美佳のベルリンでの活躍の様子は、本紙でも随時ご紹介していく予定です。どうぞお楽しみに、

「ドナウの娘」衣装あわせ

上演まで3週間ほどとなった10月下旬、ロシアから到着した「ドナウの娘」の衣装あわせが行われました。真剣な眼差しでチェックするビエール・ラコット氏は、自らメジャーを手に、ミリ単位での修正を指示。単にダンサー一人ひとりにあわせるだけでなく、作品のもつイメージ、「こうあらねばならない」というこだわりを厳格に貫きます。また、実際に着てみたダンサーは、腕をはじめとした動きやすさを確認し、さらに、脱着するときに便利のように、といった点についても、細かい神経をはらってチェックをしていました。

ロマンティック・バレエを知りつくしたラコット氏がこだわり抜いた「ドナウの娘」の“完成”は、きっと、バレエ・ファンを唸らせるものとなることでしょう。



吉岡美佳が着たフルール・デ・ジャンの衣装を入念にチェックするラコット氏

欧米なみのオペラ・バレエ環境をつくるために 皆様のご支援が必要です。

ファンドレイジング(寄付金募集)にご協力をお願いします。



当財団(NBS)は、世界一流のオペラやバレエ、オーケストラを招聘する一方、東京バレエ団の国内外の公演を通じて、わが国の音楽、舞台芸術の普及向上に努めてまいりました。しかしながら、近年舞台芸術の現場を取り巻く環境は、今までより増して厳しくなっており、公的な文化支援をこれ以上期待できず、昨今の制作費の高騰は留まるところを知らません。また、アジアの近隣諸国も、どんどん芸術文化にお金を出して、欧米の芸術団体やアーティストを招聘するようになったことから、これまでになかったさまざまな問題も生じています。

当財団では、昨年、文部科学大臣より〈特定公益増進法人〉に認可されたのを機に、欧米の芸術団体のように本格的にファンドレイジング(寄付金募集)への取り組みを開始しました。また、この活動は軌道に乗ったとはいえませんが、地道な活動を続け、これまで以上にわが国の舞台芸術の普及向上に寄与したいと願っています。

わが国における舞台芸術を取り巻く環境は欧米に比べ貧困ですが、皆様のお力添えを得て、NBSは欧米並みのオペラ・バレエの環境づくりをめざします。今後も、いっそう当財団の活動にご理解を賜るとともに、舞台芸術を愛する皆さまからのご支援を切にお願い申し上げます。

なお、当財団の賛助会には法人会員と個人会員があり、特定公益増進法人への寄付金は、税法上一定の優遇措置を受けることができます。特典もご用意しています。ファンドレイジングに関しては、NBS(支援業務室Tel.03-5721-8000)まで、お気軽にお尋ねください。

財団法人日本舞台芸術振興会

敬愛なるベートーヴェン 12/9公開 映画「敬愛なるベートーヴェン」音楽鑑賞。全国一斉ロードショー記念ツアー

ベートーヴェンの謎に迫る旅 ウィーン交響楽団 ウィーン6日間 第九鑑賞チケット付き! ¥328,000

2006年12月29日 出発

●映画「敬愛なるベートーヴェン」オフィシャルツアー 速に発表! なんと!先着25名様にはベートーヴェン・オリジナル市内観光をプレゼント! ツアーには、12月30日 ウィーン交響楽団 第九 鑑賞チケットが含まれます。年末の風物詩とも重なる公演をお楽しみくださいませ。

●その他、ご滞在中にウィーンにて行われる各種演奏会・オペラ・オブショナルツアーのご手配も可能です。(要別途代金)

旅行条件 ①全日空・日本航空・ワージンアトランティック航空・フリティッシュエアウェイズ・エールフランス・スカンジナビア航空・フィンランド航空・KLMオランダ航空・ルフトハンザドイツ航空・スイズインターナショナルエアラインズ・アリアリア航空・オーストラリア航空のいずれか ②ヒルトン・ウエスタン・エグゼクティブホテル ③朝食 ④なし (10名以上の場合同行) ⑤2名 ⑥日程 成田→ウィーン (4日)→ロンドン (1日)→成田 ※その他詳細は弊社OIAのホームページをご覧ください。

お見積りのプラン作りをいたします。お気軽にお問い合わせ下さい。(株)エイチ・アイ・エス 音楽鑑賞専門デスク

03-3538-7411 FAX 03-3564-6200

【営業時間】平日10:00~18:30 土曜11:00~16:30 日・祝休み

株式会社エイチ・アイ・エス 〒104-0061 東京都中央区銀座4-1-1 日本ビルディング新館5階504号 国土交通省旅行業登録第274号 日本旅行業協会正会員 ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

もっと世界をたのもう H.I.S. Highest International Standards

起承転々 vol.174 醜い国 佐々木忠次

新しい総理大臣に選ばれた安倍晋三氏が提唱しているのは「美しい国」である。私は政治評論家でも、社会評論家でもないが、劇場というところは不特定多数の人々が集まる場所であり、社会のマナーやモラルを叫びたいものがより強く求められるだけに、日本のリーダーたちのこうした発言に無関心ではられない。

今回の自民党の総裁選で、安倍氏はしきりにモラルの低下を嘆き、教育の再生を訴えていた。私は小・中学生の頃から舞台が大好きで、劇場に足繁く通ったものだが(今でいうオタク族かもしれない)、周囲の客に迷惑をかけてはならないという意識は、その頃から強くもっていた。それは学校で教わったわけではなかったと思う。他者との関係において、自ずとわが身を正すこと。それがマナーやモラルの根本だろう。ヨーロッパのバスや電車には優先席というものはない。ただ、年

寄りや身体の不自由な人が乗って来ると、座っている人が自然に立ち上がり、席を譲ろうとする。一番前の日本でもそれが当たり前で、それが美德だと思っていた。そういえば、「謙譲の美德」という言葉も、すでに死語も同然だ。変に「優先席」などというものをつくるからおかしなことになってしまったのだ。安倍総理の「美しい国」は結構だ、「この国を自信と誇りの持てる国にしたい」というのも大いに賛成だが、それを言う前に、なぜモラルのない「醜い国」になったかを政府に解き明かして欲しいものだ。

私はこの欄で車内化粧のことを2度取り上げています。車内の衆人環視の中で女性が化粧をするなど、私にとってはもってのほかで、世も末だと嘆きたくなる光景である。車内化粧に関し、企業倫理専門の駿河台大学の教授である水尾順一氏が、朝日新聞の「私の視点」欄(8月1日付)に寄稿されたように、周囲の客に迷惑をかけてはならないという意識は、その頃から強くもっていた。それは学校で教わったわけではなかったと思う。他者との関係において、自ずとわが身を正すこと。それがマナーやモラルの根本だろう。ヨーロッパのバスや電車には優先席というものはない。ただ、年

必要性を感じない)ののだという。これを「視線平気症候群」と称するらしい。水尾氏は公衆の面前で化粧をすることは、車内通路での「ベタ座り」や携帯電話のように他人から見れば車内化粧は恥ずかしいことであり、また見る人によっては不快な感情を抱く行為である。つまり、ここで問われているのは「恥の文化」が変化したこと、すなわち、羞恥心の欠如という個人の倫理観の問題なのだ」と述べている。では、これを解決するためにはどうすべきか。水尾氏は、やはり家庭と学校によるしつけ教育だとしている。車内の衆人環視の中で女性が化粧をするなど、私にとってはもってのほかで、世も末だと嘆きたくなる光景である。車内化粧に関し、企業倫理専門の駿河台大学の教授である水尾順一氏が、朝日新聞の「私の視点」欄(8月1日付)に寄稿されたように、周囲の客に迷惑をかけてはならないという意識は、その頃から強くもっていた。それは学校で教わったわけではなかったと思う。他者との関係において、自ずとわが身を正すこと。それがマナーやモラルの根本だろう。ヨーロッパのバスや電車には優先席というものはない。ただ、年

ルも法律や条例にしないと、誰も守らない時代がくるかもしれない。電車の中で携帯電話の使用や化粧まで法律で規制する日も近いに違いない。聖徳太子が最初につくったとされる憲法は、十七条からなるものだった。それから1400年余、次々に新しい法律をつくり続けている。法律がなじがらめに縛り、罰を与えないと、どうやら人間には悪いことをしてかしてしまう生き物らしい。ちなみに、聖徳太子の十七条憲法の第一条は、「和を以て貴しと為す」である。第一、日本人は協調性に富み、他者への目配り、気配りを重んじてきた民族ではなかったのか。「視線平気症候群」などは、まったく縁のない歴史をもつ民族だったのではないかと思う。劇場は社会の縮図である。私は政治家ではないが、せめて劇場が少しでも心地よい空間になるように、微力を尽くしたいと思っている。「美しい国」づくりは、とりあえず「美しい劇場空間」からだ。他者へのちょっとした気配りが、モラルを改善させ、マナーの向上につながる。劇場芸術に携わる者の一人として、公共空間における心がけを若い人たちに伝承して欲しいと切に願っている。

Information & Topics

東京バレエ団ベジャール生誕80周年記念特別公演シリーズ(III) ベジャールの「くるみ割り人形」

12月6日(水) 6:30p.m. ゆうぽうと簡易保険ホール
12月7日(木) 6:30p.m. ゆうぽうと簡易保険ホール

[そのほかの公演]
12/26(火) 福岡サンパレス [092-852-6606]
*東京以外の公演については、各地主催者にお問合せください。

■主な出演
ビム:高橋竜太(12/6)、氷室友(12/7)
母:吉岡美佳(12/6)、高木綾(12/7)
M...:中島周(12/6,7) ほか

■入場料【税込】
S=¥10,000 A=¥8,000 B=¥6,000
C=¥5,000 D=¥4,000 学生券=¥2,000
★大人ペア券 S席2枚=¥18,000
A席2枚=¥14,400
★親子ペア券 S席2枚=¥15,000
A席2枚=¥12,000

ベジャール生誕80周年記念 特別イベント<小林十市、ベジャールを語る>

2007年1月13日(土) 6:00p.m.
東京文化会館小ホール
約15年間ベジャール・バレエ団に在籍した小林十市氏によって、ベジャール芸術の偉大さ、素晴らしいエピソードなどが紹介される予定です。

■申し込み方法:東京バレエ団公演「ザ・カブキ」または「ベジャールのアジア」チケット購入の方を先順で無料ご招待いたします。NBSチケットセンターでお買い上げいただいた方には、チケット発着時にイベントの申込書を無料いたします。その他の場所でお買い求めいただいた方は、NBSチケットセンターまで申込書をご請求ください。チケット1枚につき1名様のお申し込みとさせていただきます。定員になり次第受付を終了いたします。お問合せ:NBSチケットセンター TEL.03-3791-8888

東京バレエ団ベジャール生誕80周年記念特別公演シリーズ(IV)「ザ・カブキ」

●「ザ・カブキ」
2007年1月23日(火) 6:30p.m. 東京文化会館
2007年1月24日(水) 6:30p.m. 東京文化会館
[そのほかの公演]
2007年1/30(火) 北上市文化交流センター さくらホール [0197-61-3500]
2007年2/3(土) サンパレス川 [03-3802-7111]
*「舞楽」「バクチ川」「ザ・カブキ」(ハイライト)
*東京以外の公演については、各地主催者にお問合せください。

■主な出演
由良之助:高岸直樹(1/23)、後藤晴雄(1/24)
顔世:斎藤友佳理(1/23)、吉岡美佳(1/24)

■入場料【税込】
S=¥10,000 A=¥8,000 B=¥6,000
C=¥5,000 D=¥4,000 E=¥3,000
エコノミー券=¥2,000 学生券=¥2,000
★新春ペア券 S席2枚=¥18,000
A席2枚=¥14,400
*エコノミー券は+のみで、学生券はNBSのみで12月15日(金)より受付。

東京バレエ団ベジャール生誕80周年記念特別公演シリーズ(V)《ベジャールのアジア》

●「中国の不思議な役人」「舞楽」「バクチ川」ほか
2007年1月27日(土) 3:00p.m. 東京文化会館
2007年1月28日(日) 3:00p.m. 東京文化会館

■入場料【税込】
S=¥10,000 A=¥8,000 B=¥6,000
C=¥5,000 D=¥4,000 E=¥3,000
エコノミー券=¥2,000 学生券=¥2,000
★新春ペア券 S席2枚=¥18,000
A席2枚=¥14,400
*エコノミー券は+のみで、学生券はNBSのみで12月15日(金)より受付。

東京バレエ団ベジャール生誕80周年記念特別公演シリーズ3演目特別通し券発売中
S=¥21,000 A=¥16,800 B=¥12,600
ベジャールの80歳(傘寿)を祝うシリーズ3演目を同時に申し込みいただいた方には、ふだんでは考えられない30パーセント引きの特別価格で提供させていただきます。
*3演目特別通し券の販売はNBSチケットセンターのみで行います。定数に達し次第締め切らせていただきますので、お早めにお申し込みください。(3演目は同一の席ではありません。)

ヴェッセリーナ・カサロヴァ リサイタル

●〈オール・ロシアニ・プロ〉
2007年2月8日(木) 7:00p.m. サントリーホール
●〈バロック〜ロマンティック・アリア〉
2007年2月11日(日) 2:00p.m. サントリーホール
[そのほかの公演]
2/14(水) 水戸芸術館 [029-231-8000]
2/17(土) 大阪・ザ・シンフォニーホール [06-6453-6000]
*東京以外の公演については、各地主催者にお問合せください。

■予定される曲目:
●〈オール・ロシアニ・プロ〉
[タンクレディ]より/[シャブラスのマトリルデ]より/[セミアミテ]より/[セリヤの理髪師]より/[アルジェのイタリア女]より ほか
●〈バロック〜ロマンティック・アリア〉
ヘンデル:[アリオダンテ]より/ロッシニ:
[セミアミテ]より/ドマ:
[ミニオン]より/クノー:
[サフォール]より ほか
■曲目の詳細はチラシをご参照ください。
■指揮:デイヴィッド・サイラス
管弦楽:東京フィルハーモニー交響楽団

■入場料【税込】
S=¥15,000 A=¥13,000 B=¥11,000
C=¥ 8,000 D=¥ 6,000
エコノミー券=¥4,000 学生券=¥3,000
*エコノミー券は+のみで、学生券はNBSのみで2007年1月12日(金)より受付。

ズーピン・メータ指揮イスラエル・フィルハーモニー管弦楽団演奏会

●Aプロ
2007年3月17日(土) 7:00p.m. サントリーホール
●Bプロ
2007年3月18日(日) 2:00p.m. サントリーホール
[そのほかの公演]
3/20(火) 大阪・ザ・シンフォニーホール [06-6453-6000]
3/21(祝) 愛知県芸術劇場 [052-241-8118]
3/22(木) 倉敷市民会館 [086-434-0505]
3/24(土) 福岡シンフォニーホール [092-725-9112]
3/25(日) 富崎町立芸術劇場 [0985-28-3210]
*東京以外の公演については、各地主催者にお問合せください。

■予定される曲目
●Aプロ
シューベルト:交響曲第3番
マーラー:交響曲第7番「夜の歌」
●Bプロ
R.シュトラウス:交響詩「ツァラトゥストラはかく語りき」
ドヴォルザーク:交響曲第9番「新世界より」

■入場料【東京公演・税込】
S=¥22,000 A=¥20,000 B=¥18,000
C=¥15,000 D=¥12,000 E=¥9,000
エコノミー券=¥7,000 学生券=¥6,000
*エコノミー券は+のみで、学生券はNBSのみで2007年2月16日(金)より受付。

エルサレム弦楽三重奏団演奏会

2007年3月27日(火) 7:00p.m. 紀尾井ホール
[そのほかの公演]
2007年3/28(水) 日経ホール [03-5255-2852]
2007年3/31(土) そごう劇場 [06-6281-3111]
2007年4/1(日) そごう劇場 [06-6281-3111]
*東京以外の公演については、各地主催者にお問合せください。

■予定される曲目
モーツァルト:ディヴェルティメント変ホ
長調 K.563
ドヴォルザーク:三重奏曲 ハ長調 op.74
ベートーヴェン:3つの弦楽三重奏曲
第1番 長調 op.9-1

■入場料【東京公演・税込】
S=¥6,000 A=¥5,000
B=¥4,000 学生券=¥2,000
*学生券はNBSのみで2007年2月23日(金)より受付。
12月9日(土)10:00a.m.前売開始

エディタ・グルベローヴァ<オペラ・アリアの夕べ>

2007年4月1日(日) 2:00p.m. 東京文化会館
2007年4月6日(金) 7:00p.m. 東京文化会館
[このほか名古屋、大阪をルートによるリサイタル]
2007年4/10(火) 愛知県芸術劇場コンサートホール [052-241-8118]
2007年4/14(土) 大阪・ザ・シンフォニーホール [06-6453-6000]
*東京以外の公演については、各地主催者にお問合せください。

■予定される曲目
モーツァルト:歌劇「後宮からの逃走」より
“あらゆる苦しみか”
ドニゼッティ:歌劇「ランメルモールのルチア」より
狂乱の劇場
ペリニーニ:歌劇「ノルマ」より
“清らかな女神よ”
ペリニーニ:歌劇「テンダのペトロリチエ」より
“もし私に墓をたてることがゆるさなくても”
ほか、共演者のイヴァン・パレイによるアリア、オーケストラ曲
■パルトン:イヴァン・パレイ
指揮:フリードリッヒ・ハイダー
演奏:オビエド・フィラルモニア

■入場料【東京公演・税込】
S=¥21,000 A=¥18,000 B=¥15,000
C=¥12,000 D=¥ 8,000 E=¥ 5,000
エコノミー券=¥4,000 学生券=¥3,000
*エコノミー券は+のみで、学生券はNBSのみで2007年3月2日(金)より受付。

★特別プレゼント割引
エディタ・グルベローヴァ<オペラ・アリアの夕べ>のS~B券をお買い上げの方に、オビエド・フィラルモニア演奏会のS~B券を1枚につき3,000円割引いたします。両公演は同時に申し込みください。両公演の券種は異なっても結構です。NBSのみで受付。

フリードリッヒ・ハイダー指揮 オビエド・フィラルモニア演奏会

2007年4月7日(土) 2:00p.m. 東京文化会館

■予定される曲目
ファリャ:歌劇「はかない人生」より 序曲と間奏曲

ファリャ:スペインの7つの民謡
パルトン:イヴァン・パレイ
サラサーテ:バスク舞曲「ノバネラ/チゴイ
ネルワイゼン」/
「カルメン」幻想曲
ヴァイオリン:イワン・ボチョーキン
ファリャ:舞踊組曲「恋は魔術師」

■入場料【東京公演・税込】
S=¥12,000 A=¥10,000 B=¥8,000
C=¥ 5,000 D=¥ 4,000 E=¥3,000
エコノミー券=¥2,000 学生券=¥2,000
*エコノミー券は+のみで、学生券はNBSのみで2007年3月2日(金)より受付。

CLOSE UP 斎藤友佳理 「ドナウの娘」への意欲を語る

いよいよ上演が目前となった「ドナウの娘」この作品が、19世紀にパリ・オペラ座で初演された後、上演の機会がなく、1978年にアルゼンチンのテアトロ・コロンで一度だけ上演が行われた幻の作品であることはすでにご紹介している通り。事実上の世界初演ともいえる今回、主役のフルール・デ・ジャンを演じる斎藤友佳理は大きな責任を感じながら、意欲を漲らせています。

「今回私たちが踊ることで、このバレエが100年後、200年後に残る名作になるかどうかと思う、ものすごく重圧を感じます。でも、私は今、モスクワ舞踊アカデミーの大学院の生徒でもあるんですが、先生方に夏休みの後の集中講義は「ドナウの娘」のために授業には出られないことになる、と相談したら、何人もの先生が、「そっちに集中しなさい! ぜひ「ドナウの娘」を見せてくれ」と励ましてくださいました。バレエに携わる人間にとって、やはりこれは大きな意味をもつ作品なんだということを実感しています。」

1年半前に上演が決まったところから、「作品を自分の血のなかに取り入れる作業を始めた」と言う斎藤友佳理。

「全身全霊で取り組んでいます。この作品は、とにかく振付が緻密に決まっています。一つ一つの音に一つの動きということまで厳密に決まっています。そこまでかっちり決められた振りのなかで、自分なりの膨らみや演技を加えていかなければならないのが難しいですね。それにこれはロマンティック・バレエの常なのか、ずっと同じポジションで流れるように踊りがつながっていくので、そうした中でいかに振りを追うだけでなく、内容を濃く見せていくか、気品を損なわないでいかに役柄を濃くしていくか、ということが重要な課題になってくると思うんです。」

「いま私がバレエ・ファンの方にお伝えしたいことは、今回の機会がお客さまにとってもいかに貴重なことか、ということです。だって、古典の作品の初演に立ち会えるなんて、一生のうちにあかどうかが、ということですから。まして「ドナウの娘」は、この作品があったからこそ、「ジゼル」などの作品が生まれてきたというバレエ史の流れにおいても重要なもの。会場に来ていただければその空間を共有しているという時点で、歴史に残る2時間半を過ごしていただけるのだと思っています。」

斎藤友佳理のバレエへの熱い思いが繰り広げられる上演を、どうぞお楽しみに。



斎藤友佳理、木村和夫 Photo:Kiyonori Hasegawa

イスラエル・フィル創立70周年 記念特別プレゼント

イスラエル・フィルハーモニー管弦楽団演奏会の入場券(S,A,B)をお買い求めの方の中から、イスラエル・フィルの精鋭メンバーで構成されるエルサレム弦楽三重奏団演奏会に抽選で300名様をご招待します。お申し込み期限 2006年11月20日 *お申し込みはNBSのみで受付。
*申し込みご希望の方は、入場券お求めの際に、その旨お申し出ください。後からのお申し出は無効となります。
NBSチケットセンター TEL 03-3791-8888

NBSチケットセンター 03-3791-8888 NBSのホームページからもチケットをご購入いただけます。http://www.nbs.or.jp/